

OLYMPUS

Your Vision, Our Future

2018年3月期 経営方針

2017年5月2日
オリンパス株式会社
代表取締役社長執行役員
笹 宏行

- 本資料のうち、業績見通し等は、現在入手可能な情報による判断および仮定に基づいたものであり、判断や仮定に内在する不確定性および今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が目標と大きく異なる結果となる可能性があります。
- また、これらの情報は、今後予告なしに変更されることがあります。従いまして、本情報及び資料の利用は、他の方法により入手された情報とも照合確認し、利用者の判断によって行って下さいますようお願い致します。
- 本資料利用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

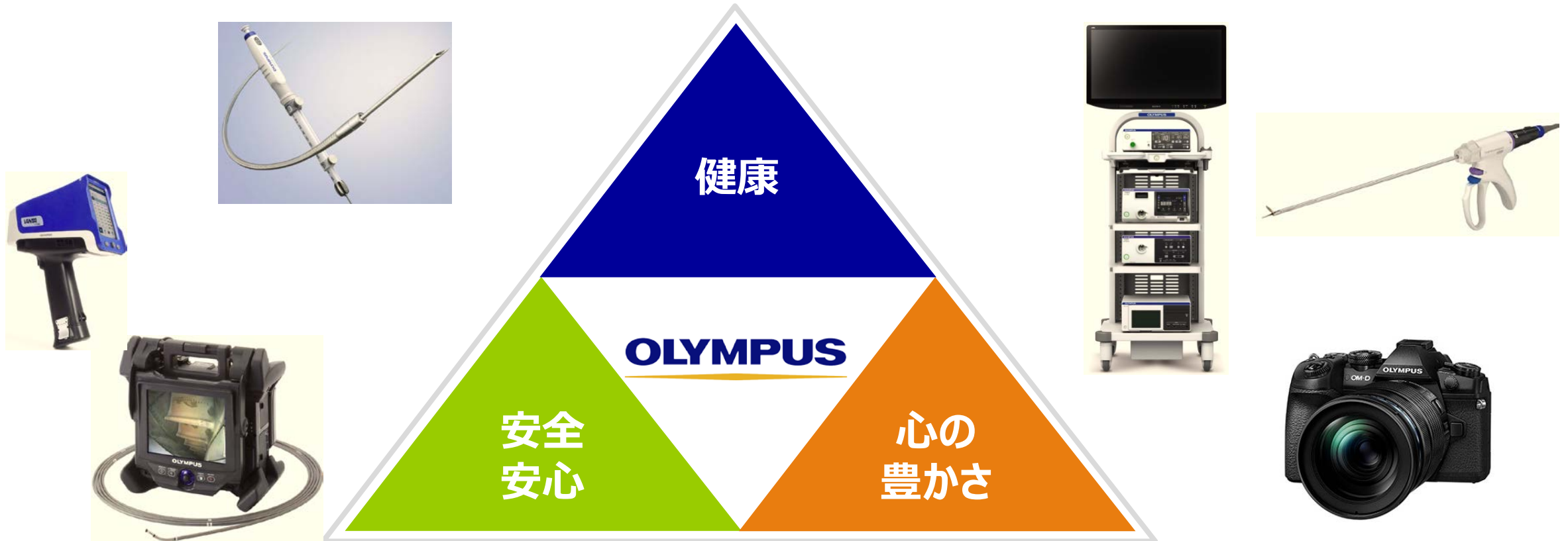
経営理念・経営ビジョン

経営理念

“Social IN” : INtegrity, INnovation, INvolvement

経営ビジョン

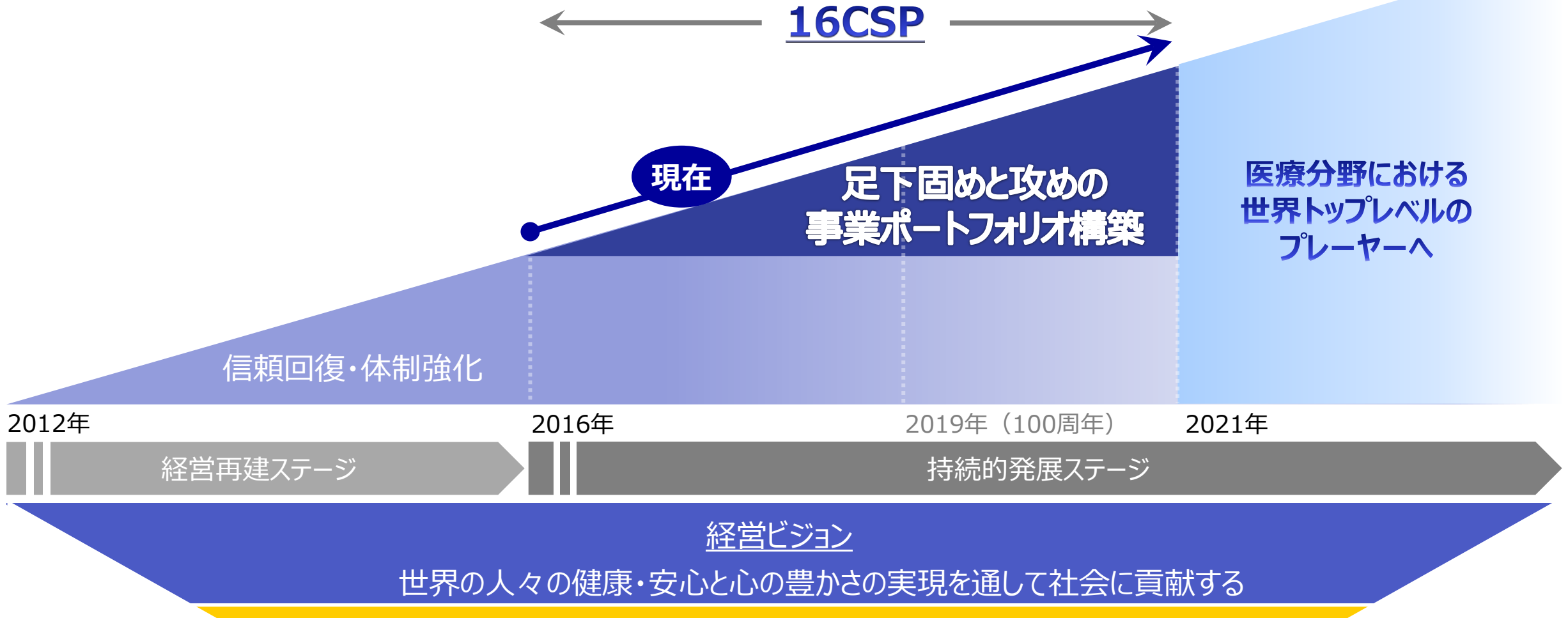
世界の人々の健康・安心と心の豊かさの実現を通して社会に貢献する



中期経営計画（16CSP）の位置付け

16CSP

創立100周年（2019年）の節目を越えて、持続的な発展を実現するための、足下固めと攻めの事業ポートフォリオの構築



医療

- 堅調な成長を維持
- アジア・オセアニア地域は2桁成長を継続

<医療事業セグメント 対前年成長率>

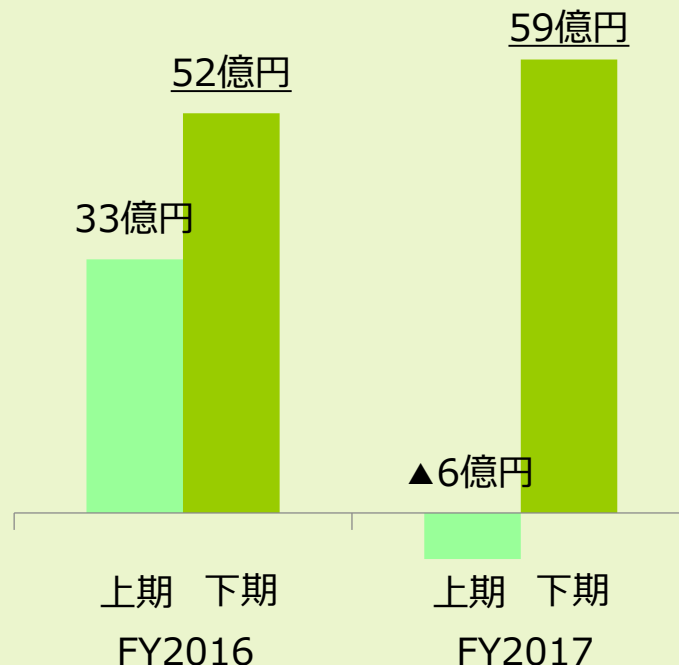
World Wide	+4%
アジア・オセアニア	+15%

*為替影響調整後

科学

- 上期は資源安等の影響で営業損失も
下期の営業利益は、一転、前年同期を上回る水準へ回復

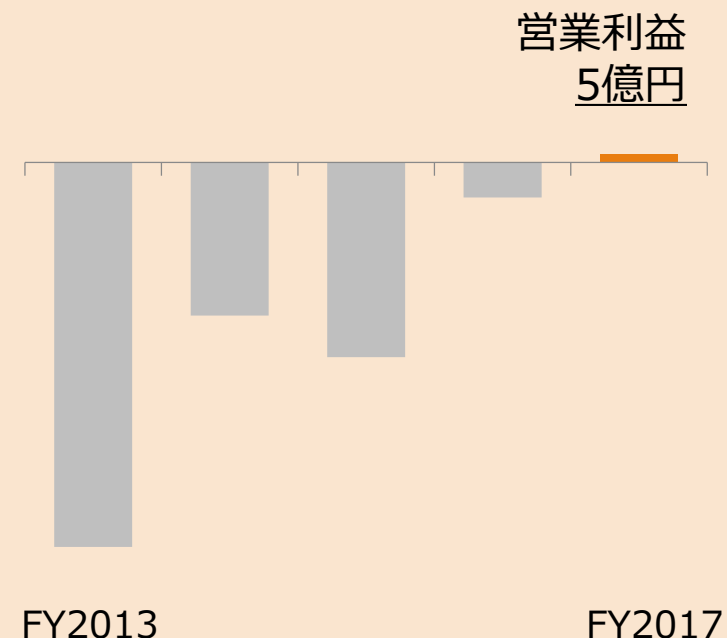
<科学セグメント営業損益 対前年比較>



映像

- 7期ぶり、通期で営業黒字を達成

<映像セグメント営業損益の推移>



- 自己資本比率を5pt高めつつも、16CSPに掲げた「ROE重視の経営」に沿って**ROEは19%へ改善**

	2016年3月期 (実績)	2017年3月期 (実績)	16CSP 経営目標
資本効率性 ROE	17%	19%	15%
事業収益性 営業利益率	13%	10% (為替影響調整後 13%)	15%
事業成長性 EBITDA	+9%	▲16% (為替影響調整後 6%)	期間平均成長率 2桁
健全性 自己資本比率	38%	43%	50%

16CSP重点戦略	2017年3月期の取り組み
1 事業成長に向けた積極的な取り組み	<ul style="list-style-type: none"> 医療・科学・映像の各事業において主力の新製品を投入 成長に向けて製品ラインアップを拡充
2 必要経営資源の適時確保・最大活用	<ul style="list-style-type: none"> 成長領域への経営資源の最大活用に向け 子会社の譲渡を決める等、重点戦略への注力を促進
3 持続的成長を可能とする将来に向けた仕込み	<ul style="list-style-type: none"> 東南アジア地域を対象とした内視鏡トレーニングセンター 設立等、新興国向けビジネス拡大のための取り組み実施
4 更なる事業効率の追求	<ul style="list-style-type: none"> 業務改革プロジェクト始動
5 グローバル・グループ連結経営深化に向けた 体制強化	<ul style="list-style-type: none"> 欧米現地法人のトップを本社の経営執行メンバーに 加える等、One Olympus の意識徹底を促進
6 品質・製品法規制対応、内部体制の強化、 コンプライアンスの徹底	<ul style="list-style-type: none"> 社外取締役が過半数を占める取締役会体制 「コーポレートガバナンスに関する基本方針」に則ったアクション の実行

メガトレンド

- グレートリバランシング : 世界における新興国のプレゼンス拡大
- 少子高齢化 : 医療ニーズの増大、医療費抑制圧力
- ICTの発展と普及 : ICTによる産業構造の変化（多様性）

2018年3月期 の見通し

- 事業環境のメガトレンドにおける大きな方向性に変化はないものの、欧州の政治リスクや、不安定な中東・東アジア情勢など地政学リスクもあり、世界経済全体としての見通しは不透明
⇒ 16CSPの経営方針に基づき戦略を確実に遂行するとともに、変化への対応力を向上させる
「成長分野への投資」と「業務改革による生産性・効率性の向上」によって持続的な成長を実現

医療

■ 「早期診断」「低侵襲治療」を軸に持続的成長を促進

① BU毎の方針

GIR: 消化器内視鏡の圧倒的シェアの維持

処置具製品ラインナップ拡充

GS: イメージング、エナジー領域とも、先期投入した

新製品によるビジネス拡大

UG: 技術力を強みとした軟性鏡の圧倒的シェアの維持

ENT: デイゴエリートポートフォリオを活用した

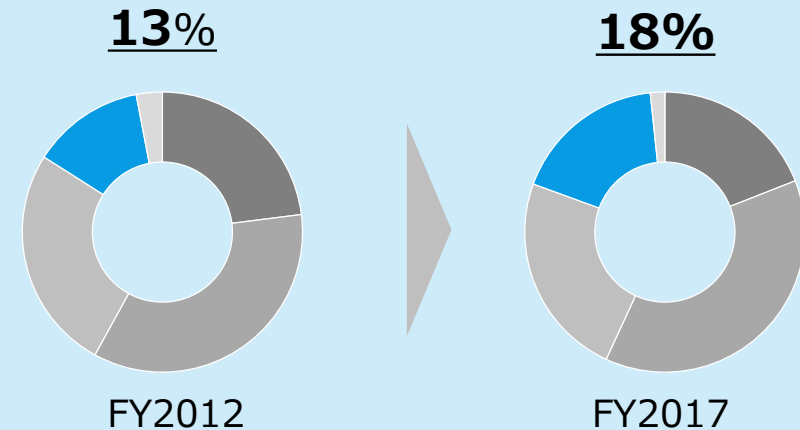
内視鏡下副鼻腔手術(ESS)ビジネスの拡大

MS: グローバルでのサービス提供基盤の強化

② 地域の状況：新興国構成比の高まり

売上に占める影響も大きくなる中、高い成長を継続

<医療事業の売上高に占めるアジア・オセアニア地域の割合>



科学

■ 最先端の科学技術の発展への貢献とともに成長

■ 産業・検査領域での商品ポートフォリオ拡充

映像

■ 市場の変化・縮小へ対応しつつ黒字体質を維持

■ 全社技術ドライバーとしての貢献

経営資源配分

経営資源

安定した財務基盤の確保を前提とし、成長分野への投資を優先した上で、適切な株主還元を行う

	2017年3月期 (日本基準)	2018年3月期見通し (日本基準)
① 財務健全性	自己資本比率 43%	有利子負債の削減への取り組みにより 更に自己資本比率改善へ
② 成長投資	医療事業の国内主要製造拠点の 生産能力増強	医療事業におけるグローバル 修理・サービス拠点の強化
③ 株主還元	1株当たり配当 (予定) 28円 (配当性向 12%)	1株当たり配当 (予定) 28円 (配当性向 19%)

OLYMPUS

Your Vision, Our Future

2017年3月期 連結決算概況 2018年3月期 通期見通し

2017年5月2日

オリンパス株式会社

取締役副社長執行役員 CFO

竹内 康雄

2017年3月期 通期実績 ①連結業績概況

- ① 為替影響により前年比では減収減益も、主力の医療事業は堅調に推移し、為替影響調整後では増収増益
- ② テルモ社株式売却等による特別利益の計上により、当期純利益は過去最高の782億円（2期連続更新）

通期実績（4-3月）

(単位：億円)	2016年3月期	2017年3月期見通し (2月9日公表)	2017年3月期	見通し比		前年比	為替影響 調整後
				増減額	%		
売上高	8,046	7,430	7,481	+51	+1%	▲7%	+2%
売上総利益 (売上総利益率)	5,352 (66.5%)	4,950 (66.6%)	4,913 (65.7%)	▲37	▲1%	▲8%	+3%
営業利益 (営業利益率)	1,045 (13.0%)	760 (10.2%)	765 (10.2%)	+5	+1%	▲27%	+2%
経常利益 (経常利益率)	909 (11.3%)	630 (8.5%)	621 (8.3%)	▲9	▲1%	▲32%	
当期純利益* (当期純利益率)	626 (7.8%)	770 (10.4%)	782 (10.5%)	+12	+2%	+25%	
EPS (円)	183	225	228				
円/USDドル	120円	109円	108円				
円/Euro	133円	119円	119円				
影響額：売上高	-	▲790億円	▲743億円				
影響額：営業利益	-	▲290億円	▲301億円				

2017年3月期 通期実績 ②セグメント別概況

① 医療事業：為替影響調整後では増収・増益

② 科学事業：下期以降の市況回復、新製品供給の安定により、為替影響調整後で増収増益を達成

③ 映像事業：新製品効果や費用のコントロールの徹底等により、7期ぶりに黒字化

(単位：億円)		4Q (1-3月)				累計 (4-3月)			
		2016年3月期	2017年3月期	前年同期比	為替影響調整後	2016年3月期	2017年3月期	前年比	為替影響調整後
医療	売上高	1,637	1,650	+1%	+5%	6,089	5,753	▲6%	+4%
	営業利益	416	327	▲21%	▲10%	1,402	1,155	▲18%	+1%
科学	売上高	281	299	+7%	+11%	1,016	932	▲8%	+1%
	営業利益	29	40	+38%	+64%	85	53	▲38%	+3%
映像	売上高	163	168	+3%	+5%	783	656	▲16%	▲10%
	営業利益	▲22	▲2	-	-	▲21	5	-	-
その他	売上高	40	28	▲29%	▲28%	158	140	▲11%	▲9%
	営業利益	▲10	▲17	-	-	▲58	▲46	-	-
全社・消去	売上高	-	-	-	-	-	-	-	-
	営業利益	▲106	▲130	-	-	▲364	▲402	-	-
連結合計	売上高	2,120	2,145	+1%	+5%	8,046	7,481	▲7%	+2%
	営業利益	308	217	▲29%	▲12%	1,045	765	▲27%	+2%

連結貸借対照表

- 投資その他資産 : 保有株式売却等により274億円減少
- 純資産 : 当期純利益782億円の計上により純資産は4,309億円
- 自己資本比率 : 有利子負債の削減および利益剰余金の増加により43.3%に上昇

(単位：億円)	2016年 3月末	2017年 3月末	増減額
流動資産	5,207	5,530	+323
有形固定資産	1,661	1,714	+53
無形固定資産	1,508	1,311	▲197
投資その他資産	1,631	1,356	▲274
資産合計	10,006	9,911	▲96

	2016年 3月末	2017年 3月末	増減額
流動負債	2,666	2,747	+81
固定負債 (内：社債・長期借入金)	3,497 (2,645)	2,855 (2,175)	▲643 (▲470)
純資産	3,843	4,309	+466
(自己資本比率)	(38.2%)	(43.3%)	(+5.1pt)
負債 純資産 合計	10,006	9,911	▲96

有利子負債：2,864億円（2016年3月末比▲348億円）

連結キャッシュフロー計算書

■ FCF：堅調な事業からの利益の計上やテルモ社株式等政策保有株式の売却による収入により819億円

(単位：億円)		2016年3月期	2017年3月期	増減
売上高		8,046	7,481	▲565
営業利益		1,045	765	▲280
	(営業利益率：%)	13.0%	10.2%	▲2.8pt
	営業CF	486	902	+416
	投資CF	▲ 529	▲83	+446
	財務CF	▲ 339	▲442	▲104
キャッシュフロー		▲ 381	376	+758
フリーキャッシュフロー		▲ 43	819	+862
現金及び現金同等物期末残高		1,663	1,994	+331
減価償却費		399	447	+47
のれん償却額		99	86	▲12
設備投資額		644	493	▲151

2018年3月期 通期業績見通し

2018年3月期 通期業績見通し

- 堅調な医療事業を中心に、前年比3%の増収
- 将来の成長への投資をしつつも、営業利益段階では前年比3%の増益

(単位：億円)	2017年3月期	2018年3月期見通し	増減	前年比
	(日本基準)	(日本基準)		
売上高	7,481	7,700	+220	+3%
営業利益 (営業利益率)	765 (10.2%)	790 (10.3%)	+25	+3%
経常利益 (経常利益率)	621 (8.3%)	690 (9.0%)	+69	+11%
当期純利益* (当期純利益率)	782 (10.5%)	510 (6.6%)	▲272	▲35%
EPS (円)	228	149	▲79円	
1株当たり配当金 (円)	28	28	-	
配当性向	12%	19%	+7pt	
円/USD	108円	110円	+2円	
円/Euro	119円	115円	▲4円	

2018年3月期 セグメント別業績見通し

- 医療事業：引き続き全社業績を牽引
- 科学事業：厳しい事業環境の中、増収増益を確保
- 映像事業：減収も、更なる事業効率の向上、費用のコントロールの徹底により黒字体質の定着へ

(単位：億円)		2017年3月期 (日本基準)	2018年3月期見通し	増減	前年比
			(日本基準)		
医療	売上高	5,753	6,010	+257	+4%
	営業利益	1,155	1,190	+35	+3%
科学	売上高	932	950	+18	+2%
	営業利益	53	55	+2	+4%
映像	売上高	656	650	▲6	▲1%
	営業利益	5	10	+5	+101%
その他	売上高	140	90	▲50	▲36%
	営業利益	▲46	▲50	▲4	-
全社消去	売上高	-	-	-	-
	営業利益	▲402	▲415	▲13	-
合計	売上高	7,481	7,700	+220	+3%
	営業利益	765	790	+25	+3%

2018年3月期見通し (IFRS)

(単位：億円)

	2018年3月期 見通し	2018年3月期 見通し	差異	主な差異項目
	(日本基準)	(IFRS)		
売上高	7,700	7,660	▲40	①一部販促費の控除：▲30億円
営業利益	790	790	-	②科目組替：▲40億円 ③のれん非償却：+80億円 ④開発費の償却の増加：▲30億円 ⑤退職給付計算変更：▲20億円
税引前利益 [IFRS] 税金等調整前当期純利益 [日本基準]	690	720	+30	③、④、⑤による影響
親会社の所有者に帰属する当期利益 [IFRS] 親会社株主に帰属する当期純利益 [日本基準]	510	550	+40	③、④、⑤による影響および日本基準との 差異に関連する税金費用の調整
配当性向	19%	17%		

OLYMPUS

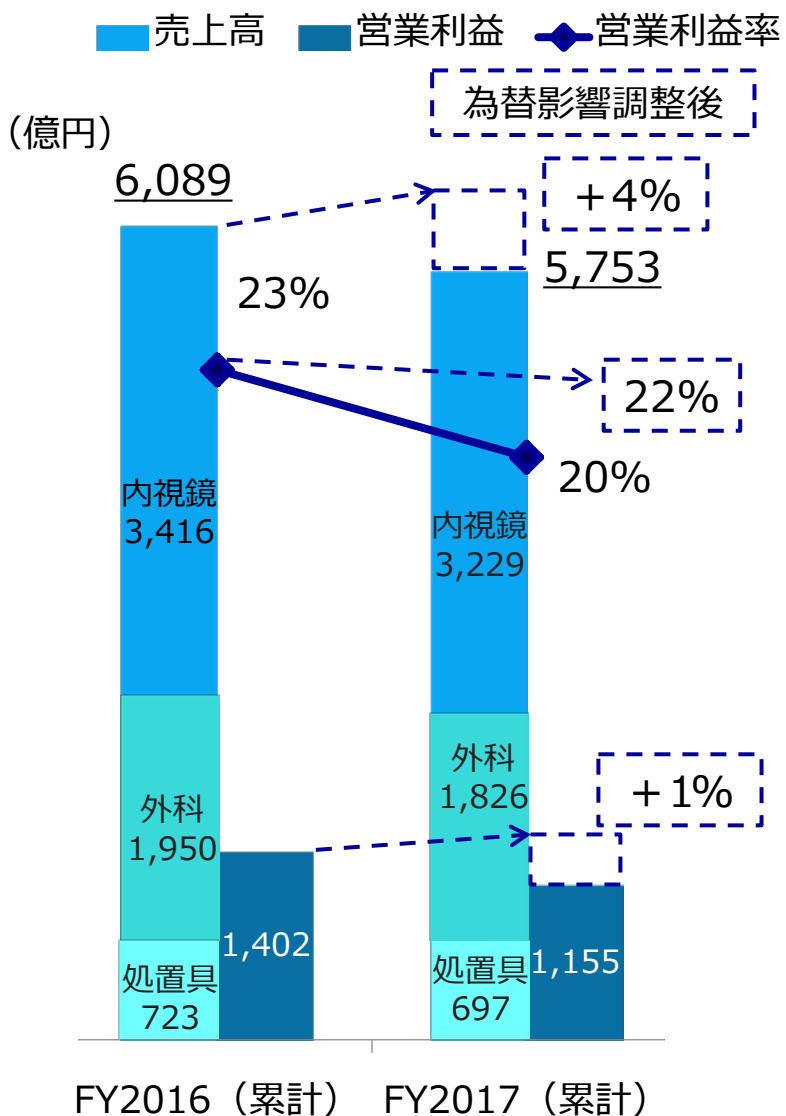
【参考資料】 IFRS移行に伴う開示スケジュール

	日本基準	IFRS
2017年5月2日	2017年3月期決算短信※1	—
2017年6月	2017年3月期有価証券報告書	—
2017年8月	—	2018年3月期第1四半期報告書 2018年3月期第1四半期決算短信※2

※1 2018年3月期業績予想は日本基準とIFRSの両方で開示

※2 2017年3月期実績のIFRS数値は、2017年8月の2018年3月期第1四半期決算発表時に公表

【参考資料】 2017年3月期 通期実績 医療事業



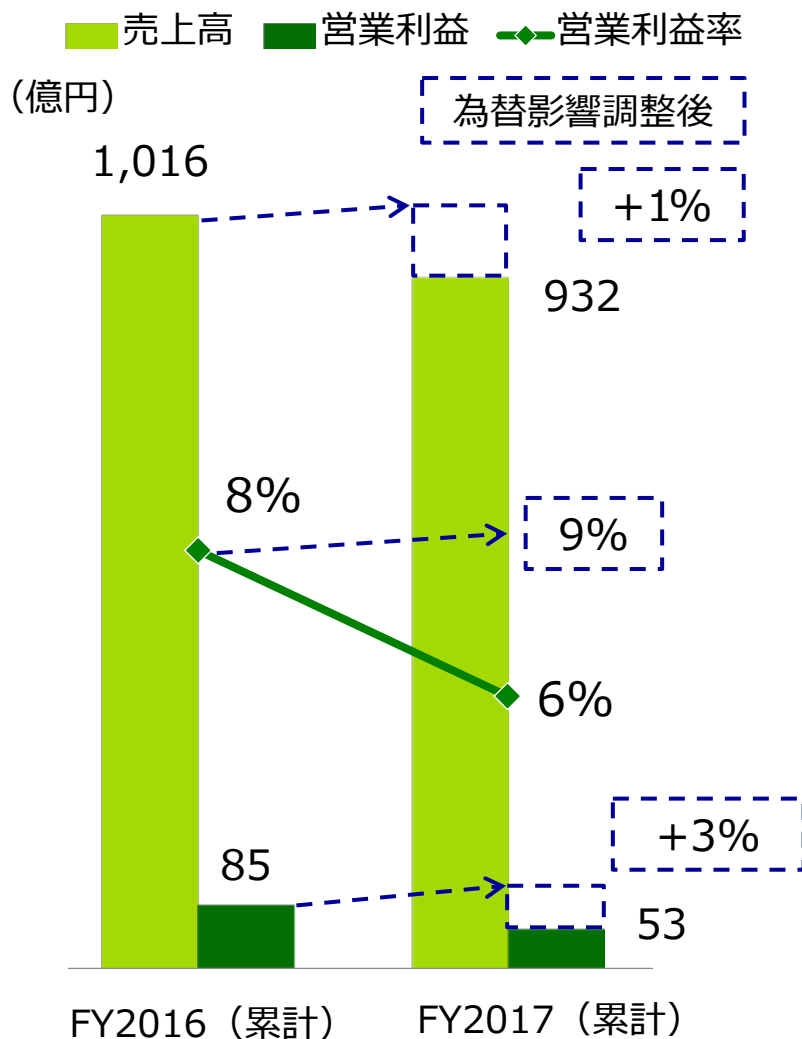
実績数値

(単位：億円)	4Q (1-3月)				累計 (4-3月)			
	FY2016	FY2017	前年同期比	為替影響調整後	FY2016	FY2017	前年比	為替影響調整後
売上高	1,637	1,650	+1%	+5%	6,089	5,753	▲6%	+4%
内視鏡	933	937	+0%	+5%	3,416	3,229	▲5%	+4%
外科	522	531	+2%	+6%	1,950	1,826	▲6%	+4%
処置具	183	182	▲0%	+2%	723	697	▲4%	+4%
営業利益	416	327	▲21%	▲10%	1,402	1,155	▲18%	+1%
営業利益率	25%	20%	-	22%	23%	20%	-	22%

- 将来への成長に向けた研究開発等の投資を着実に実施しつつも、為替影響調整後では全分野とも前年対比で増収・増益

内視鏡	アジア・オセアニアで2桁成長を継続
外科	エネルギーデバイス「サンダービート」の販売が主要地域で2桁成長と好調に推移
処置具	販売体制強化およびラインアップ拡充により、日欧米で順調な伸び

【参考資料】 2017年3月期 通期実績 科学事業

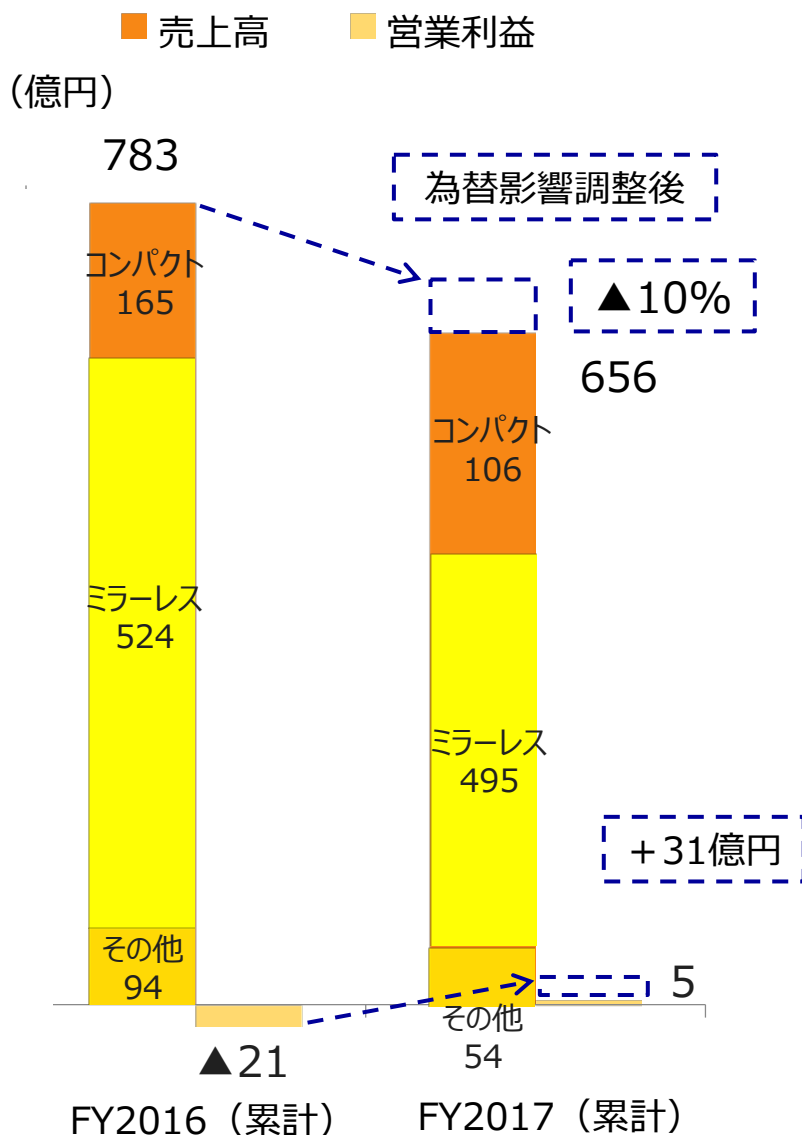


実績数値

(単位：億円)	4Q (1-3月)				累計 (4-3月)			
	FY2016	FY2017	前年同期比	為替影響調整後	FY2016	FY2017	前年対比	為替影響調整後
売上高	281	299	+7%	+11%	1,016	932	▲8%	+1%
営業利益	29	40	+38%	+64%	85	53	▲38%	+3%
営業利益率	10%	13%	-	15%	8%	6%	-	9%

- 第4四半期においては、資源関連や製造業の一部市場で投資改善が見られる等、外部環境の改善があったことに加え、新製品の供給が安定してきたことで前年同期比で増収・増益を達成
- 為替影響調整後では売上高・営業利益ともに前年対比で増収・増益

【参考資料】 2017年3月期 通期実績 映像事業



(単位：億円)	実績数値				実績数値			
	4Q (1-3月)				累計 (4-3月)			
	FY2016	FY2017	前年同期比	為替影響調整後	FY2016	FY2017	前年比	為替影響調整後
売上高	163	168	+3%	+5%	783	656	▲16%	▲10%
コンパクト	30	17	▲44%	▲45%	165	106	▲36%	▲31%
ミラーレス	114	139	+22%	+25%	524	495	▲5%	+2%
その他	20	12	▲38%	▲36%	94	54	▲43%	▲37%
営業利益	▲22	▲2	+19億円	+20億円	▲21	▲5	+26億円	+31億円

- フラグシップモデルの新製品投入効果に加え、ミラーレス一眼の既存製品の販売価格が堅調に推移したこと、費用のコントロールの徹底により、7期ぶりに営業黒字を達成
- 在庫・費用についても引き続き適正にコントロール

【参考資料】 2018年3月期 連結業績見通し（上期／下期）

(単位：億円)	2017年3月期 (日本基準)		2018年3月期見通し (日本基準)		前年同期比 (%)	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期
売上高	3,500	3,981	3,680	4,020	+5%	+1%
営業利益 (営業利益率)	344 (9.8%)	421 (10.6%)	340 (9.2%)	450 (11.2%)	▲1%	+7%
経常利益 (経常利益率)	288 (8.2%)	333 (8.4%)	300 (8.2%)	390 (9.7%)	+4%	+17%
当期純利益* (当期純利益率)	222 (6.3%)	560 (14.1%)	230 (6.3%)	280 (7.0%)	+4%	▲50%

【参考資料】 2018年3月期 セグメント別業績見通し（上期／下期）

(単位：億円)		2017年3月期実績 (日本基準)		2018年3月期見通し (日本基準)		前年同期比 (%)	
		上期	下期	上期	下期	上期	下期
医療	売上高	2,718	3,035	2,850	3,160	+5%	+4%
	営業利益	566	589	540	650	▲5%	+10%
科学	売上高	402	530	460	490	+14%	▲8%
	営業利益	▲6	59	20	35	-	▲41%
映像	売上高	298	358	320	330	+7%	▲8%
	営業利益	▲14	19	10	0	-	-
その他	売上高	82	58	50	40	▲39%	▲31%
	営業利益	▲20	▲26	▲30	▲20	-	-
全社・消去	売上高	-	-	-	-	--	-
	営業利益	▲182	▲220	▲200	▲215	-	-
連結合計	売上高	3,500	3,981	3,680	4,020	+5%	+1%
	営業利益	344	421	340	450	▲1%	+7%

【参考資料】 医療事業BU別目標CAGR ※16CSP発表時

BU		市場規模（億円）	CAGR	
			市場	当社
GIRBU (消化器科呼吸器科事業)	内視鏡	3,500～3,700	4～6%	7%
	処置具	3,700～3,900	4～6%	
GSBU (外科事業)	外科イメージング	2,600～2,900	2～4%	11%
	エネルギー	1,600～1,800	3～5%	
UGBU (泌尿器科婦人科事業)	泌尿器科	1,700～1,900	2～4%	8%
	婦人科	200～300	2～4%	
ENTBU (耳鼻咽喉科事業)	咽喉科	150～170	4～5%	13%
	鼻科	220～240	4～5%	
	耳科	50～70	1%以下	
MSBU (医療サービス事業)	-	-	-	5%
合計	-	-	-	8%